



るうてる

機関紙
『箱崎群教会共同体版』

ーメッセージと証しー

発行 日本福音ルーテル箱崎教会 2023年秋号(通算470号)

代表者 牧師 和田 憲明
〒812-0053 福岡市東区箱崎 3-32-3
TEL (092) 641-5440



【箱崎教会・恵泉幼稚園】

【聖ペテロ教会】



【奈多愛育園・るうてる愛育園】(保育園)



『聖書』マタイによる福音書 18章 15~20節
／新約聖書 35ページ

15 「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。

16 聞き入れなければ、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。

17 それでも聞き入れなければ、教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れないなら、その人を異邦人か徴税人と同様に見なさい。

18 はっきり言うておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつなぐれ、あなたがたが地上で解くことは、天上でも解かれる。

19 また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。

20 二人または三人がわたしの名によって集まる場所には、わたしもその中にいるのである。



えられたのです。けれども、なかには反りの合わない子も居て時にケンカもし、口も聞かない時期がありました。ある時、それを察した年上の青年から彼と一対一で膝を突き合わせて話すように促されました。しかし、私が「アイツとは話しても無駄」とゴネてると、その方は「それならもう君の夢はあきらめなさい」と叱責されたのです。その方は私が神学校に行きたいことを知っておられたのでした。私が言葉に詰まるとその方は「それが教会だ」と諭すようにお話くださいました。青年期の苦い思い出ですが、この話に裏付けされた箇所が今日のマタイ福音書 18章 15節からの御言葉だと思います。「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい…」から始まりですが、新共同訳聖書には「兄弟の忠告」と表題が付されています。話し合いが二人から始められ、徐々に増えていく様子に気づかされま

さて、ここからは先輩の牧師に教わったことですが、もめる当事者二人で話し合う時には互いに秘密を守る段階で、神さまの前で祈り合うことから始める、というのです。それでも解決しない場合がある。お金にまつわること、信仰の教義のことなど。その時は教会の信頼できる人を呼び三人で話し合うようにと言われる。この段階ではそれぞれが自己弁護し正当化する場合が多くなる。そして「それでも聞き入れなければ、教会に申し出なさい…」(17節)のように役員会や特別の委員会などで問題を取り扱い、教会の規定に付して討議しなくてはならない。なぜなら、教会はすべての人に門戸を開いているので自浄作用が機能しなければ崩れていくからだ…と。新約聖書には実際、跡形もなく消えた教会もあります(コリントなど)。ですから、2000年余の教会の歴史において、守られてきた教会の話し合いの方法や順序は大変重要です。イエスさまが具体的に示しているからです。

二人から始まる教会に

<話す基本は一対一から>

教会とはなにか。皆さんも考えることがおありでしょう。今も教会につながり礼拝にあずかる私たちですが、感想は少しずつ異なると思います。教会に長く繋がっている方は「これが教会だ」という思い出は尽きないでしょうし、日の浅い方は真っ先に十字架のある建物をイメージするかもしれません。

私が初めて教会を訪れたのは15才の頃でした。年の近い子も多く集まり礼拝や食事を共にしました。そして月に一度、サムエル・ナイト(信仰継承プログラム)という教会に寝泊まりするプログラムでは、学校とは得がたい信仰の友も与

＜「教会」はエクレシア「集められた民」＞

じつは「教会」という言葉は、4つの福音書を通してたった二回しか記されません。どちらもマタイ福音書にあります。今日の箇所以外にもう一つは二週前の御言葉にありました。イエスさまが巷の噂を聞いている12弟子にあなた方はわたしを何者だというのか、と尋ねるとペトロが私にとって「あなたはメシア」（救い主）と答える。イエスさまは「わたしも言うておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。」

（マタイ16:18）と言われた「教会」です。新約聖書の原語ギリシャ語でエクレシア「集められた民」という意味です。ですから、教会は単に思い出の詰まっているところでも建物を指しているのではなく、神さまによって集められた者たちが「イエスさまこそが私にとって救い主です」と答えるところです。その信仰告白の上に建てられるのが教会です。

＜三浦綾子「勸告をきく者には知恵がある」＞

このように教会について思い巡らしましたが、クリスチャンの小説家・エッセイストの三浦綾子(1922～1999)さんの体験談は、より深く今日の聖句を読み解いているので、少し長いのですが紹介させていただきます――



「私はこの間、ある女性に注意をした。人間には、それぞれ長所短所があるものだが、長所短所は表裏一体ともなっている。例えばルーズな者が気前がいい、というように。彼女の場合も、考えようによっては長所とも思われることだったが、私はあえてその欠点を指摘した。と、彼女は、『はい、わかりました。申し訳ありません。おっしゃる通りに直します。』と、快く私の言葉を受け容れてくれた。日頃から彼女は実に素直な人なのである。そして、二十分程経ってから彼女は更に言った。『本当に申し訳ありません。注意をしてくださることは、さぞお辛かったですよね。私も人に注意をする時は、一晚眠れずに、いろいろと注意する言葉を考えたりしますから、お気持ちのほどよくかわるのです。本当にありがたいと思います』彼女は真実をこめて言った。私は今まで、幾度も人に注意をしたり、人から注意されたりしたが、彼女のように

注意を与える人の心まで、深く思いやるということは、自分もしなかったし、こんなふうに出して感謝されたこともなかった。私は彼女の言葉を聞くと、はっと飛びすさって、地面に両手をつきたいような思いに駆られた。それは、気高いと言ってもよいほどの素直さであり、優しさであり、謙遜さであると思った。(中略) 私は自分の目から鱗が落ちたような思いであった。、『泉への招待』P59より)。三浦さんの人間観や洞察力がにじみ出ていますし、なにより信仰生活の具体的な「信仰告白」として聞くのです。御言葉によって気付かされ、このように成熟した人格を育む教会でありたいと願います。

＜二人から始まる教会に＞

ちなみに私と反りの合わなかった彼が、少し前に福岡に遊びに来てくれました。楽しく思い出を振り返る機会がありましたが、久しぶりに話すとはやはり考え方が異なる。彼と互いに「意見が合わないねえ。」と笑って楽しく食しました。でも「それが教会だ」と確認し合ったのです。教会として歩む時、私たちの弱さや問題をいつもはらんでいる人間関係に気付かされます。しかし、今日与えられた御言葉や

「特別の祈り」にあった私たちの脆さを神さまに助けていただくよう祈り求めたいのです。なぜなら、イエスさまは二人または三人以上を集めて教会と

され、私たちの中に今も生きて働いてくださる方だからです。ですから、一人ひとりがイエスさまこそ救い主だと告白しつつ語り合ひましょう。その信仰告白の上に今日も教会は立ち続けるのです。主イエス・キリストは、「…どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」(19～20節)と私やあなたに語られます。この約束を信じる私たちの教会です。

＊ 9月9日(土)、10日(日) 聖霊降臨後第15主日礼拝(説教要旨)

「証し」(神さまからの自身への働きかけ)
の2つの文章を寄稿いただきました
感謝しつつ おかちいたします (わ)

さるすべり

K・O (聖ペテロ教会)

手入れの行き届かない我が家の庭で、もう枯れてしまったと思っていた百日紅(の木が今年いくつか花をつけた。

その縮れたピンク色の花をみていたら「あと100日間しか生きられなかったら何をする？」いつか100日間の生を問うた彼女のことを思い出した。

今までめったに開けたことがなかった記憶の扉の向こうにはかなく笑う彼女の姿があった。

私の社会人としての第一歩は東京の荒川沿いにある小さな会社から始まった。今ではすっかり様変わりして当時の町並みはほとんど残っていないと聞かすが、駅前の繁華街を抜けて迎いのバスに揺られてたどりつく会社は自分が思い描いていた都会の風景にはほど遠かった。バスの窓から見える景色はどことなく埃っぽく、目に映るなにもかもが灰色に見えたものだった。そんな不平不満を抱えた私の指導役(?)が彼女だった。

私は彼女から仕事のみならず、そこで社会人としての基本の「き」を教わった。ともすると箸の上げ下げにまで細かく目を配る彼女の厳しい指導に音を上げて何度田舎に逃げ帰ろうと思ったことだろう。そうさせなかったのは彼女の真剣さだった。「私には明日がない。時間がない。」彼女の口癖はいつしか私の口癖となり、私はせかせかとした社会生活のスタートをきったのだった。

「ねえ、もし100日間しか生きられなかったら何をする？」彼女はよく聞いた。「好

きな人に告白する」「おいしいものを食べる」・・・思いつくまま口にする私の言葉は空回りするばかりで何の意味もなかった。彼女は沈黙するだけで、いつもどこか遠い目をしていた。

沈黙の意味・・・彼女が広島で被爆されていたことは後日知った。

被爆する前の100日と何もかもなくした100日後、惨い体験から狂った歯車、失ったものと命の重み、生を問う彼女の中にはたくさんのことがこめられていたのに違いない。

一心に祈る彼女の横で一緒に手を合わせながら、私は何を祈っていたのだろう。

青春のほんのひとこまを共有した彼女も、たぶん被爆したことに因する病に倒れ遠くに旅立って久しい。あの頃一心に彼女が何を祈っていたのかはもはや知る術はない。

あれからいくつもの季節を送ったのに、地球上には今も戦火に脅えるひとがいる。想像を絶する恐怖にさらされている人がいる。核兵器の使用も辞さない社会であってはならない。

—— 平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。

マタイによる福音書5章9節 ——

一輪の花の向こうの無言の空間は、時として有言に何ごとか語りかけてくることがある。



ルーテル教会の魅力の中で

A・O (るうてる愛育園園長)

長男が高校を卒業するまで福岡に住んでいたのは、今から40年も前の事です。当時は、福岡西教会に籍がありましたので、箱崎教会は時々訪れる教会でした。10年ほど前には孫が恵泉幼稚園でお世話になりました。そして昨年からは私が東区のるうてる愛育園での仕事が与えられ、土曜出勤の翌日の日曜日に箱崎教会の礼拝に出席させていただいております。

私自身は高校卒業の春、18歳で日本基督教団の五泉教会(新潟)で洗礼を受けました。教団の礼拝に与っていた時は、聖書と讃美歌そして説教が礼拝の中心と思って何の疑問もなく教会生活を続けていました。結婚によって、ルーテル教会に転籍しましたが、当初は式文との出会いも衝撃的でしたし、慣れるのに少し時間がかかりました。

しかし、礼拝は教会歴に従って日課が定められ、主日に決まったテーマがあり、聖書の箇所や賛美歌も祈りもそのテーマにすべてが整えられていることに深い意味があることを知り、いままで知らずにいたことへの腹立たしさと同時に、礼拝の意味を知り心地よさも感じてきました。

こだわりのある礼拝(初めの招きがあり、ざんげ、ゆるしそしてみことばの部の聖書朗読・説教・聖餐・感謝から派遣へという一連の流れ)です。

気づいてからルーテル教会の良さが私を支えてくれたように感じています。

私の好きな聖書の箇所が二つあります。一つは使徒行伝に出てくるエチオピアの宦官がイザヤ書を読んでいる時に弟子のピリポと出会うところです。『読んでいることがおわかりになりますか?』と尋ねられた宦官が『手引きしてくれる人がいなければどうしてわかりましょう?』と答えるところです。あと一つはエマオの途上の箇所も大好きです。

聖書も信仰生活も導き手が私たちに必要であることをいつも感じて教会生活をしていきます。人生の中の様々な出来事は、心地よいことばかりではないし、自分で解決できないことがたくさんあります。箱崎教会の礼拝に出席することで40年前の信仰の友が温かく迎えてくださっている事にも感謝しながら喜びをもって礼拝に集っています。信仰生活の中でいつも解決の道が示されるのは教会生活を通して、励まされ慰められていると実感しています。

私は今熊本の室園教会に籍を置いています。室園教会が現在ふたりの神学生をルーテル神学校に送り出しています。来年の春には三浦慎里子神学生が按手を受ける予定ですが、その後も中山神学生が在籍し、出身教会として小さな力を結集して応援しているところです。牧師先生方が不足している現状で、私たち信徒は信仰生活を続けなければならない時代を迎えました。

課題を持ちつつですが、温かい箱崎教会の礼拝でつながっている幸せを感じながら、これからもどうぞよろしく願いいたします。

【おしらせ】

- 毎週土・日10時30分~の礼拝は、いつでも(一度だけでも)、どなたでも(信徒でなくとも)自由にご参加できます(約1時間)
- 子どもたちには、教会学校のように「こどもへのおはなし」があり「祝福」をいたします
- 礼拝堂の見える隣の部屋を自由にご使用できます(エアコン・音響完備)
- 毎月「第1火曜日10時30分~」(箱崎教会)もはじめました 平日もおまちしています
- ご不明な点は、牧師まで気軽におたずねください

